

## 自由民主党 国際保健医療戦略特命委員長 武見 敬三様 祝辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、高木理事長をはじめ、医学部の創設に大変御尽力をされた皆様方に対して、心からお慶びを申し上げたいと思います。

さて、わが国は21世紀の今日、国際社会において、責任ある成熟した国家としての役割が求められているところは、皆様ご承知の通りであります。そうした中においても、保健・医療という分野は、特に期待されるところでございます。こうした中で、国際医療福祉大学医学部は、140名の新入生の皆様方の中で、20名を約10か国のアジアの国々から受け入れることを決定してくださいました。それにより、これからアジアでさらに必要とされる多くの優秀な医師を育てるうえにおいて、1つの大きな拠点が日本の成田市に生まれたというように私は思います。

実際、わが国には多くの既存の医学部がございまして、医学部には当然のこととして、教育と研究と臨床という、3つの役割が期待されるところでございますが、おおよそ多くの医学部は、教育については特に国内志向であったということは否めない事実であります。わが国の国費留学生1つとってみても、理学部や工学部などでは、何千名もの留学生を国費留学生として受け入れる一方、医学部では6学年全部を通じても全国でわずか13名しかいらっしやらないというのが、そのことをまさに物語っているように思います。

そうした中で、医学教育の国際化を国際医療福祉大学の医学部が進めてくださるということは、確実に、研究や臨床にも多く影響を及ぼすことは明白であり、そのことはただ単に国際医療福祉大学にとどまることなく、今後のわが国の多くの医学教育・研究・臨床の分野にも、大変大きなインパクトを与えることになるだろうと思います。

国際医療福祉大学のもうひとつの大きな特長は、医療の専門職種を育成する多くの関連学部をお持ちであることでもあります。そして、医師の教育、研究、臨床と併せて、医学・医療についてそれぞれの職種から、非常に幅広く総合的に検討することができるという特色をお持ちであります。これらはいずれも、国境を越えて医学・医療の提供というものは、医師が単独で孤立して行うのではなくて、多くの関連する医療職と連携してこそ初めて、最も効果的に行えることが認められるようになった今日、それを支える人材を、こうした視点から見事に育てていくことができる体制が整っている大学だと私は思います。

この特色ある国際医療福祉大学に入学された日本人の新入生の皆様方におかれましては、これから机を並べて、アジアの国々から来られた留学生と共に、医学・医療を学ばれることとなります。その経験が確実に皆様方の視野を広げていくことは明らかであります。これから21世紀今日、改めて日本が責任ある成熟した国家としての役割を果たすうえで、今日いらっしやる皆様方こそが、その担い手として最も期待されるどころだと改めて申し上げ、しっかりと勉学に励み、また学園生活を楽しまれ、そしてアジアからの留学生をよき友として共に過ごされることをご期待申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。